

# アメリカの人口動態と出生率

1

2015.5.12

A13083 野崎結衣

# OUTLINE

- 先進諸国とアメリカの人口動態
- アメリカにおける高出生率
  - ・ベビーブーム
  - ・若年出生率
  - ・移民 ヒスパニック

# 先進諸国とアメリカの人口動態

- ・先進国の中でアメリカは最も国民が若い国の1つ

## Median age

2005→2050

アメリカ	36	40 (4up)
西ヨーロッパ	40	49 (9up)
日本	43	56 (13up)

## Elderly share

2005 → 2050

アメリカ	12.3%	20.2% (7.9up)
西ヨーロッパ	17.5%	30.6% (13.1up)
日本	19.7%	38.9% (19.1up)

# 先進諸国とアメリカの人口動態

- ・先進国の中でアメリカは最も国民が若い国の1つ

## The old age dependency ratio (老年人口指数)

生産年齢人口(15-64歳)に対する老年人口(65歳以上)の比率

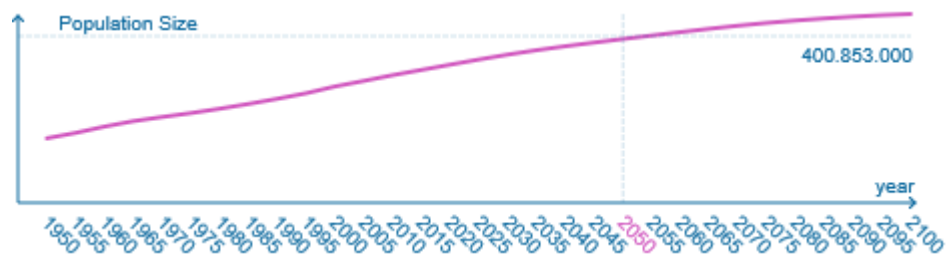
	2005 → 2050	
アメリカ	21	37
西ヨーロッパ	29	59
日本	32	81

老年人口指数が大きいほど、高齢者1人あたりに対する現役世代の人数が少ない。

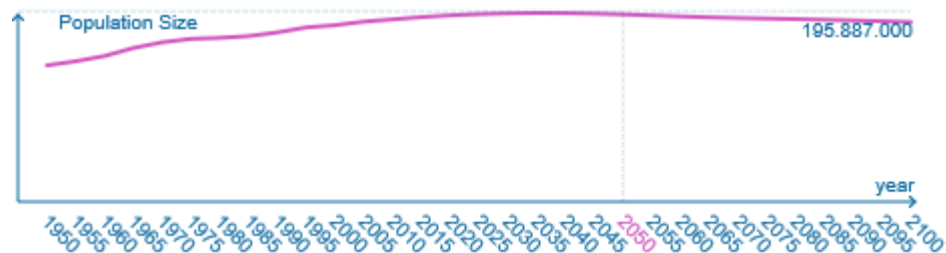
# 先進諸国とアメリカの人口動態

- アメリカでは今後も人口増加が続く見通し

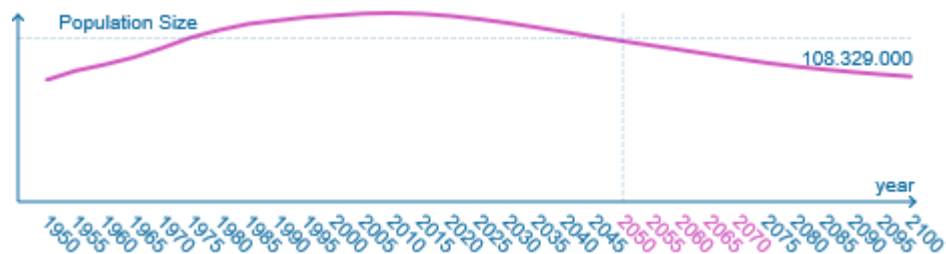
アメリカ



西ヨーロッパ



日本



# 先進諸国とアメリカの人口動態

- 先進国間で人口動態に違いが生じる主な要因
  - Fertility Rate 出生率
  - Life Expectancy 平均寿命
  - Immigration 移民

人口高齢化の進む先進国の中でもアメリカと他の英語圏の国々は比較的安定した人口統計を保っている。

特に出生率に注目

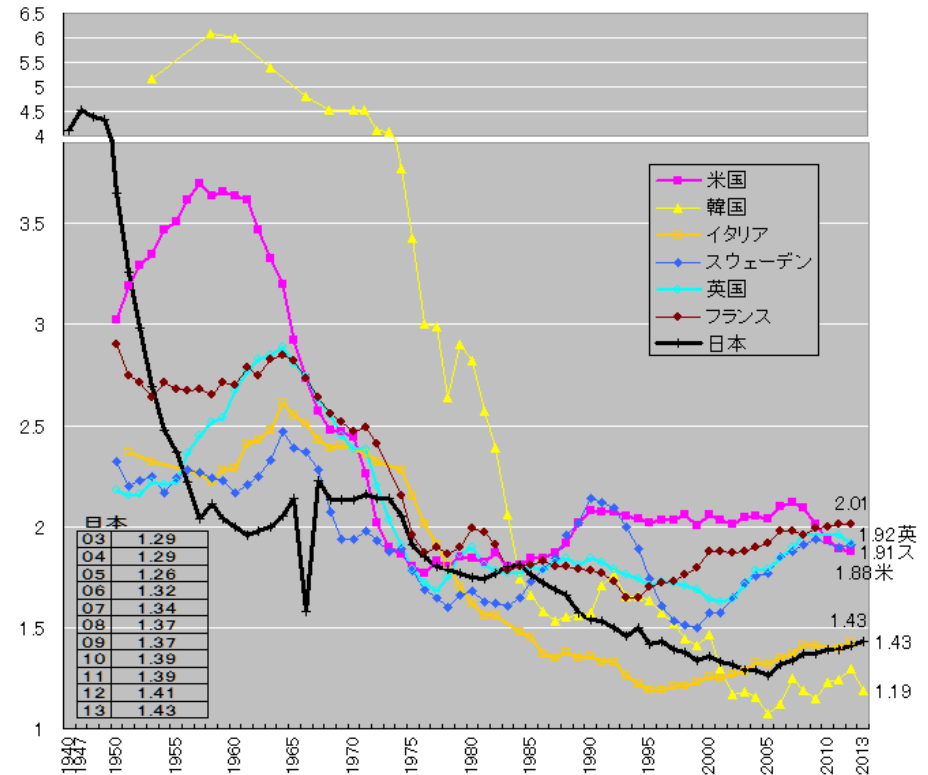
# アメリカにおける高出生率

- 先進国の中でもアメリカは高い出生率を維持している

2000年頃から、アメリカの合計特殊出生率は2.0から2.1の間をさまよっている

人口置き換え水準 2.1

合計特殊出生率の推移(日本及び諸外国)



(注) 合計特殊出生率は女性の年齢別出生率を合計した値。数字は各国最新年次。日本13年概数。

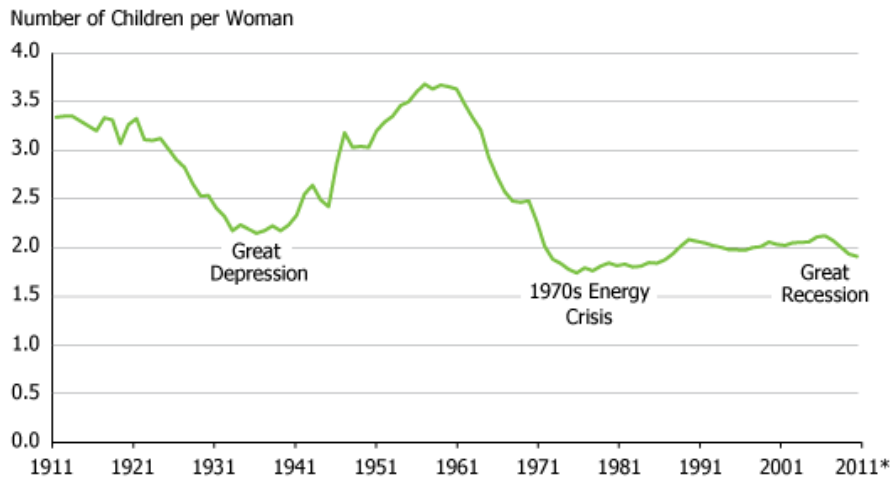
(資料) 厚生労働省「平成13年度人口動態統計特殊報告」「人口動態統計」(日本全年、その他最新年)

国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2010」、Korea National Statistics Office

# アメリカにおける高出生率

## ・要因①戦後ベビーブーム

アメリカの合計特殊出生率の推移(1909-2000)



Source: National Center for Health Statistics

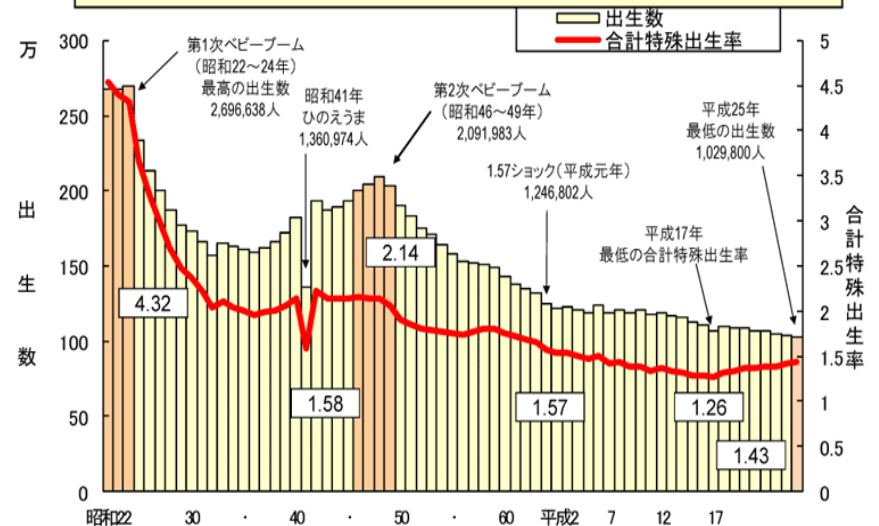
- ・アメリカでは戦後のベビーブームが18年間続く(1947-1964)
- ・この間7600万人が出生
- ・相対所得仮説

Source: Vital Statistics of the United States:

日本

## 出生数、合計特殊出生率の推移

平成25年の合計特殊出生率は1.43であり、平成17年に1.26と過去最低を記録してから微増傾向にあるが、なお楽観できない状況。



出典:厚生労働省「人口動態統計」(2013年は概数)



# アメリカにおける高出生率

- ・要因②高い若年出生率

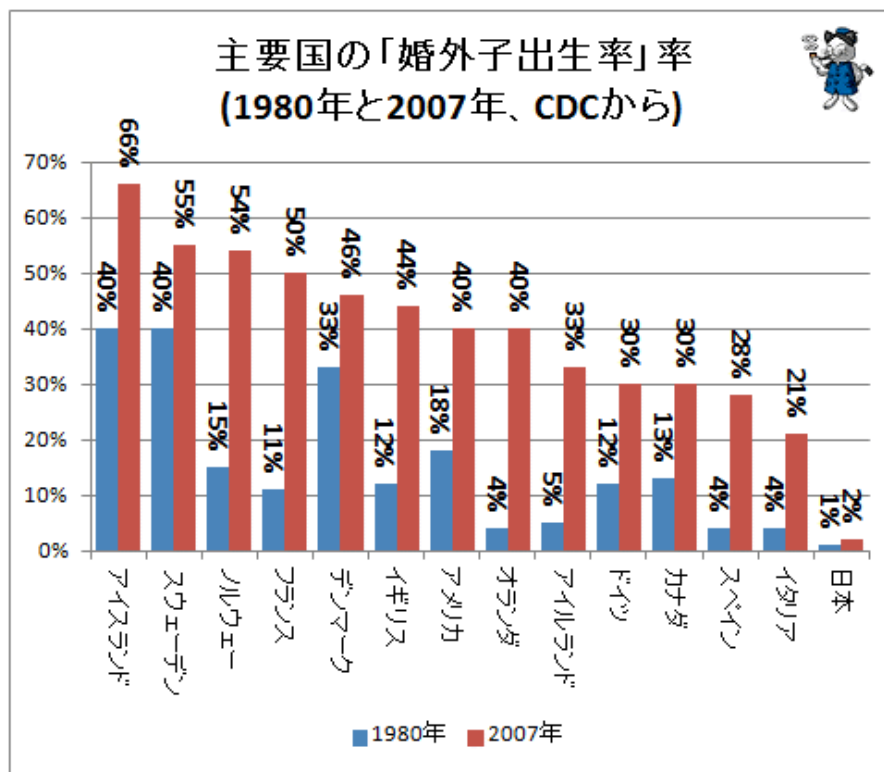
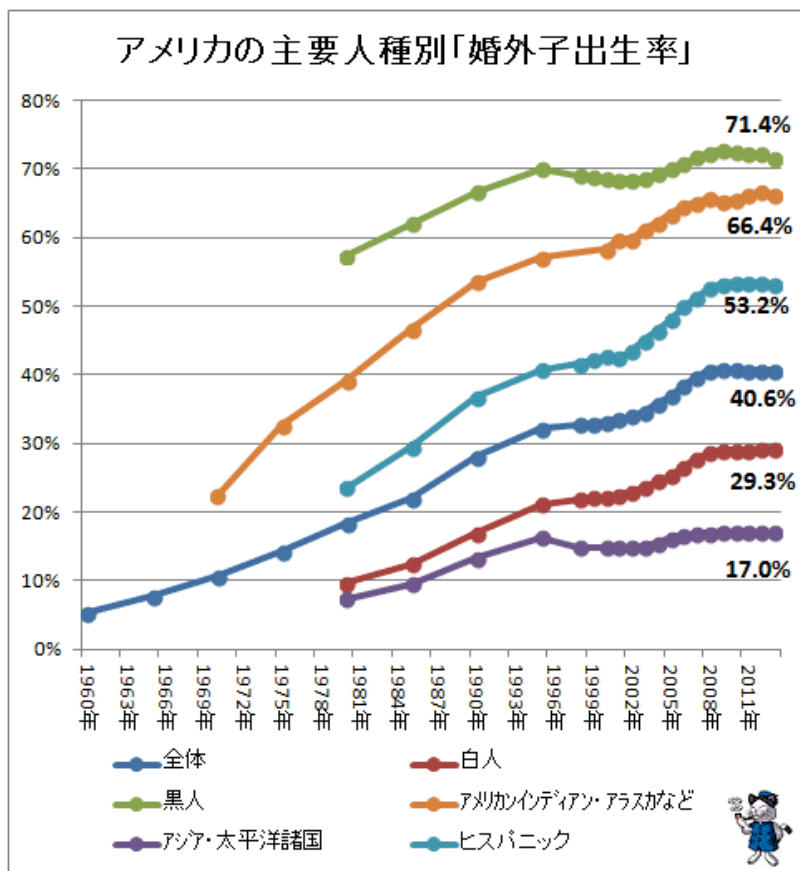
## 15 - 19歳女性の出生率

アメリカ	41.9/1000人
日本	5.2/1000人
先進諸国の平均	11.9/1000人
(イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダなど)	

アメリカの若年出生率は先進諸国の平均の約**3.5倍** !

# アメリカにおける高出生率

- 要因② 高い若年出生率 未婚の母の増加

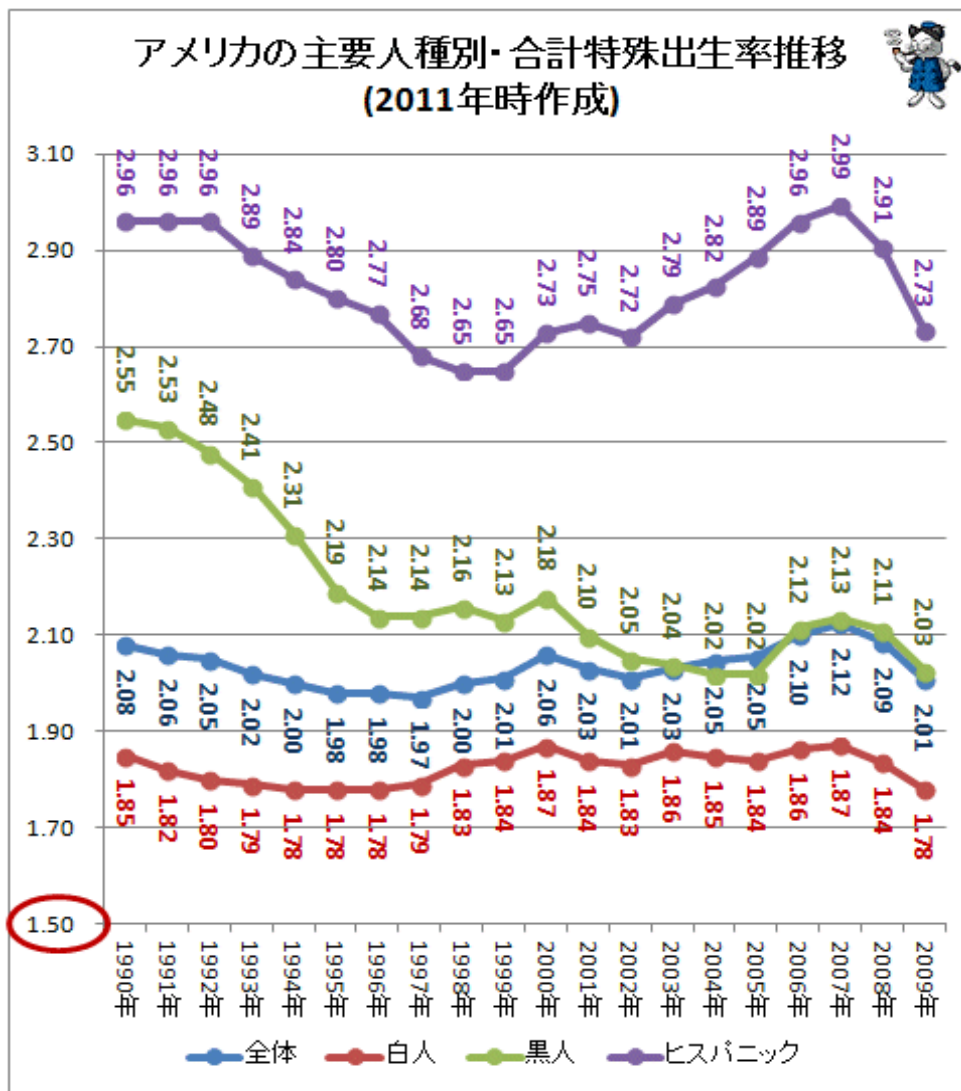


# アメリカにおける高出生率

## ・要因③移民の流入

アメリカは年間約70万人の移民を受け入れている

ヒスパニック系移民  
過去30年で増加



# おわりに

- アメリカの公的年金、個人年金
- Health-care system